

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 鉱工業生産指数(2013年12月)

発表日: 2014年1月31日(金)

～駆け込み需要対応で1-3月期の生産は加速～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL : 03-5221-4528

(単位:%)

		鉱工業生産								資本財(除く輸送機械)		消費財	
		生産		出荷		在庫		在庫率		出荷		出荷	
		前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比
12	1月	0.4	0.1	0.0	▲0.1	1.0	1.7	2.5	3.9	▲0.8	4.5	2.0	4.6
	2月	▲0.2	3.0	0.1	3.0	1.3	2.8	▲3.9	2.7	▲2.5	7.4	0.6	5.7
	3月	▲0.2	16.6	0.1	14.7	2.5	12.1	6.7	3.6	1.0	12.1	▲2.8	23.1
	4月	▲0.5	15.1	▲1.9	19.3	2.1	12.1	1.2	▲3.7	▲2.4	3.4	▲2.6	34.3
	5月	▲1.8	7.6	▲1.2	13.9	▲1.7	5.3	▲1.5	▲8.1	4.2	6.7	▲2.0	20.5
	6月	▲0.8	▲0.6	▲1.5	0.4	0.2	5.3	1.1	5.4	▲4.8	▲3.8	▲2.5	▲1.0
	7月	▲0.5	0.1	▲2.0	0.3	1.5	6.4	3.2	8.4	▲1.6	▲3.2	0.2	▲1.2
	8月	▲1.4	▲4.1	▲0.1	▲2.7	0.4	5.3	0.2	9.0	▲1.7	▲6.2	0.2	▲1.1
	9月	▲2.2	▲7.6	▲2.5	▲7.9	0.0	5.3	2.6	10.2	▲2.3	▲3.5	▲5.2	▲10.9
	10月	0.3	▲4.7	0.3	▲5.1	0.0	5.2	▲0.7	9.7	▲3.8	▲11.1	0.2	▲7.9
	11月	▲1.0	▲5.5	▲1.6	▲6.0	▲0.4	4.9	0.0	8.2	▲0.4	▲13.2	▲1.8	▲7.5
	12月	1.4	▲7.6	3.7	▲7.8	▲1.3	5.2	0.0	11.0	5.9	▲10.3	3.9	▲11.2
13	1月	▲0.6	▲6.0	1.2	▲4.2	▲1.6	3.0	▲3.8	4.7	▲0.7	▲8.1	3.4	▲7.2
	2月	0.9	▲10.1	1.8	▲8.6	▲1.2	0.4	▲2.6	6.2	1.3	▲14.4	1.4	▲10.3
	3月	0.1	▲7.2	▲0.8	▲5.9	▲0.7	▲2.7	2.3	1.7	2.1	▲5.7	▲3.9	▲10.0
	4月	0.9	▲3.4	▲1.4	▲3.0	0.8	▲4.0	▲5.1	▲4.5	▲1.8	▲3.0	0.9	▲4.2
	5月	1.9	▲1.1	1.0	▲2.1	▲0.4	▲2.7	▲2.1	▲5.2	1.7	▲6.4	▲1.8	▲5.3
	6月	▲3.1	▲4.6	▲3.2	▲5.1	0.0	▲2.9	5.9	▲0.6	▲3.5	▲6.4	▲0.8	▲5.0
	7月	3.4	1.8	2.0	1.4	1.6	▲2.8	▲0.5	▲4.2	3.9	1.2	▲0.3	▲2.8
	8月	▲0.9	▲0.4	▲0.1	▲1.3	▲0.2	▲3.3	1.8	▲2.6	▲1.5	▲1.0	1.1	▲4.6
	9月	1.3	5.1	1.5	4.6	▲0.2	▲3.5	▲2.1	▲7.1	▲1.5	0.7	1.9	4.8
	10月	1.0	5.4	2.3	6.3	▲0.3	▲3.8	▲3.7	▲9.9	9.3	14.8	2.8	6.5
	11月	▲0.1	4.8	0.0	6.6	▲1.8	▲5.1	▲1.2	▲11.0	▲3.2	10.4	1.4	8.4
	12月	1.1	7.3	0.6	6.1	▲0.4	▲4.3	0.1	▲11.0	0.6	7.3	▲1.8	5.5
14	1月	6.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	2月	0.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

(注)14年1月、2月は、製造工業生産予測調査の数値

○ 緩やかな上昇が続く

経済産業省より発表された2013年12月の鉱工業生産は前月比+1.1%となった。生産予測指数(前月比+2.8%)は下回ったが、概ね市場予想(前月比+1.3%)通りの結果となった。速報段階で公表される15行手中13業種が前月比で上昇しており、幅広い業種で改善がみられている。また、10-12月期で見ても前期比+1.9%となり、4-6月期(前期比+1.5%)、7-9月期(前期比+1.7%)に続いて+1%台の伸びとなった。加速感こそみられないが、引き続き緩やかな増産傾向が続いていると判断して良い。内需が好調に推移していることが背景にあるとみられる。

また、在庫は前月比▲0.4%と5ヶ月連続で低下した。在庫率は前月比+0.1%だったが、依然として水準は低い。在庫が抑制されている点は、先行きの生産増加に向けての好材料だ。今後、消費増税前の駆け込み需要に向けた在庫の作りこみも予想され、生産には上昇圧力がかかりやすい。

○ 増産ペースは今後加速

同時に公表された生産予測指数は1月が前月比+6.1%、2月が+0.3%と高い伸びになった。駆け込み需要対応から、先行き増産ペースが加速する可能性が高いことが示唆されている。仮に1、2月が予測指数通り、3月が横ばいと仮定すると、1-3月期の鉱工業生産は前期比+7.0%となる。さすがにこれは大幅に下回る可能性が高いが、駆け込み需要の存在を考えると、1-3月期の実際の着地としても前期比+3~4%程

度への加速は見込んで良いのではないか。

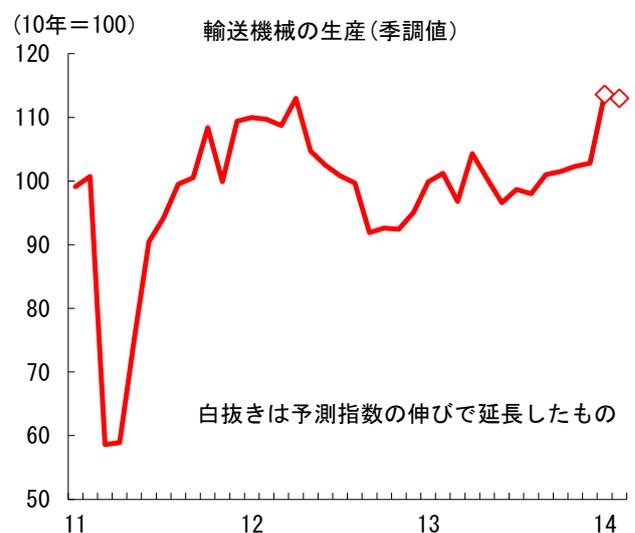
なお、1月の予測指数については、はん用・生産用・業務用機械工業が前月比+13.1%と大きく押し上げている面もある。はん用・生産用・業務用機械工業は予測指数から大幅に下方修正されることが多いため、この部分は相当割り引いて見ておくべきだ。ただ、1月の輸送機械工業が前月比+10.5%と大幅増産を見込んでいる点は注目される。輸送機械工業は予測指数から大きく逸脱することは少なく、信頼性は高い。駆け込み需要に対応した増産と見て間違いないだろう。在庫も低水準にあることも押し上げ材料となり、1-3月期の自動車生産は大幅に増加するだろう。

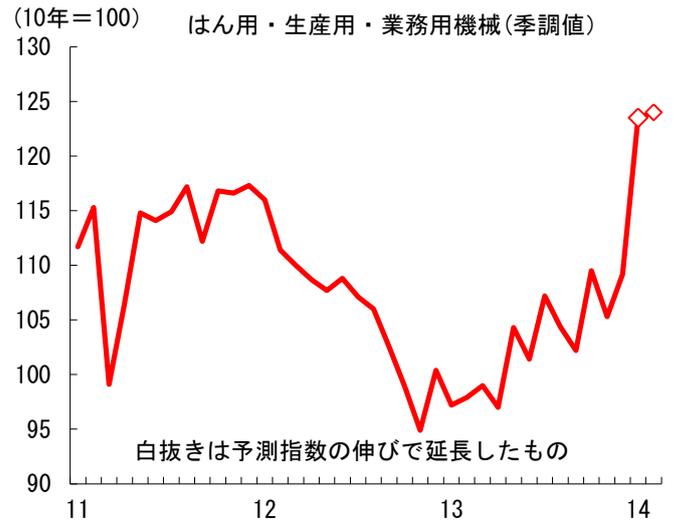
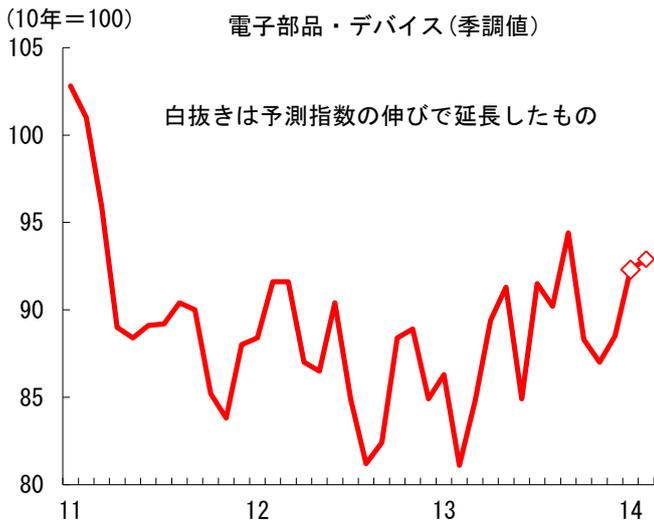
駆け込み需要対応の増産以外にも、設備投資の増勢が強まる可能性が高いことや、海外経済の緩やかな改善や円安による押し上げにより輸出の持ち直しが期待されることなど、好材料が多い。14年3月にかけて、増産ペースは加速する可能性が高い。

○ 設備投資、個人消費とも10-12月期に増加か

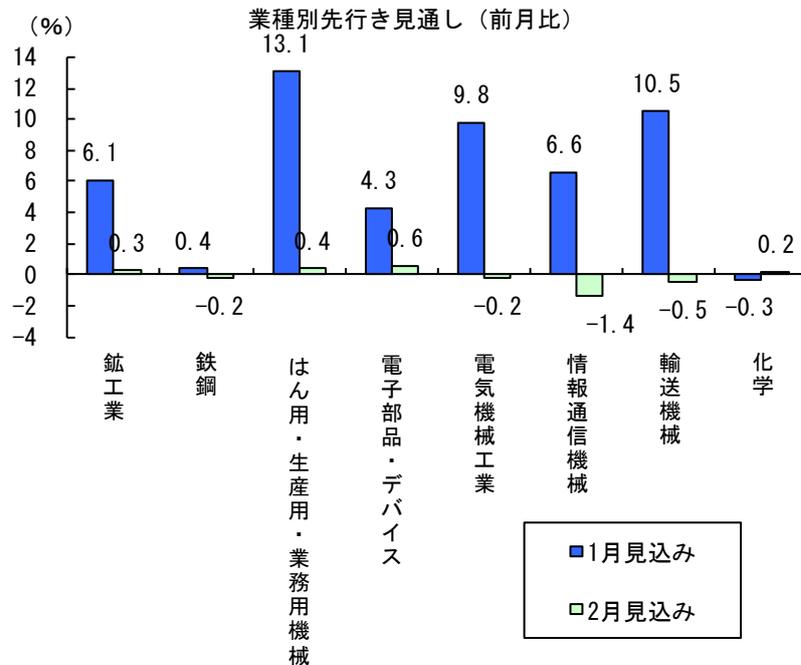
足元では、設備投資関連財、消費関連財とも増加している。機械投資の一致指標と言われる資本財出荷（除く輸送機器）は10-12月期に前期比+5.6%となった。輸送機械を含んだ資本財出荷でも前期比+6.1%であり、強さが目立つ。設備投資は10-12月期に増加する可能性が高いだろう。機械受注等の先行指標が持ち直している点も今後の設備投資回復を示唆している。

また、10-12月期の消費財出荷も前期比+4.8%と好調だ。特に耐久消費財が強く（10-12月期は前期比+8.5%）、自動車の駆け込み需要により押し上げられていることが分かる。10-12月期の個人消費（GDPベース）の伸びは7-9月期を上回る可能性が高い。





(出所) 経済産業省「鉱工業指数」



(出所) 経済産業省「製造工業生産予測調査」